

網膜硝子体手術を手がける術者にとって待望の本 網膜硝子体手術 SOS トラブルとその対策

RETINA の会 監修 喜多美穂里 編

術中、術後の合併症は避けることのできないものである。多数例の手術を経験した術者であればあるほど、合併症の経験も数多くあり、皮肉にもその分豊富な対処方法を持っている。その意味では、経験したことの無い合併症に遭遇したら、直ちにベテランの術者にアドバイスを求めるのが妥当であろう。実際、昔のことであるが、他の病院から緊急の電話がかかり、「今、硝子体手術中に駆逐性出血が生じたので、どうしたらよいか!？」という問い合わせを受けたことがある。このように緊急時に対応できれば幸運であるが、必ずしもそのような恵まれた状況にあるとは限らない。何らかの合併症に遭遇したら、あらかじめある程度の知識があれば、合併症の程度を最小限にとどめることができるかもしれない。その意味で今回、RETINA の会から『網膜硝子体手術 SOS——トラブルとその対策』が上梓されたことは、非常に喜ばしいことである。

手術の合併症だけをまとめた成書は非常に少なく、特に網膜硝子体手術に関してはほぼ皆無であり、網膜硝子体手術を手がける術者にとっては待望の本が出版されたと言える。RETINA の会は、眼科サージャンズの会が行った症例検討会を引き継いで、年2回の割合で開催されてきたという。眼科サージャンズの会は、故田野保雄先生の提案で「失敗を素直に語り合う会」という一面があり、今回の『網膜硝子体手術 SOS』は、まさに合併症への対策を受け継いできた歴史の集大成ではないかと個人的には思える。

この本では網膜硝子体術者ならば経験した、または今後経験するかもしれない術中・術後の合併症がほぼ網羅され、その対策について詳しく解説されている。具体的にみると術中では強膜バックリング手術、硝子

体手術、麻酔に関するトラブル、手術機器・器具関連のトラブルという項目に分類されている。術後の合併症では、バックル感染・脱出、眼球運動障害に始まって、眼圧上昇、硝子体出血、感染性眼内炎と続き、網膜光障害、角膜上皮障害で終わっており、計66名の執筆者がそれぞれ得意分野を分担している。個々の事例を手術の経過からどのように発生したかを示し、問題を解決するために行った処置を提示している。ストーリーとして書かれているため状況がわかりやすく、その上で、合併症の発生メカニズムと対応策を理論的に解説しているのでも、非常に理解しやすい。担当した執筆者が個々に経験した事例を解説しているため、個人的な考え方が前面に出やすく、一般的には独善的な傾向に陥ることがある。この点を是正する意味もあると思われるのが、経験豊富な術者によるアドバイスの項目である。ここに書かれたアドバイスは実に適切であり、それぞれの合併症について、補完的な意味を持たせている。また、参考文献も提示されているので、より詳しく調べるには好都合である。

取り上げられている合併症は適切に選ばれており、十分網羅されていることから、合併症に遭遇したときには、この本を開くことによつて的確な対応ができることは間違いない。ぜひとも臨床の場に置いておきたい一冊である。

竹内眼科クリニック院長・東邦大学客員教授
竹内 忍

A4 頁 264 2012 年

定価 16,800 円 (本体 16,000 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-01417-5] 医学書院刊